



しおかぜ通信

八代市立郡築小学校
校長 村嶋 博史



学校教育目標「自ら学ぶ子供」

R8,6,29 No.11

郡築小ホームページ

登下校を正しく歩き、体幹の筋力や姿勢保持の感覚を高め、学力向上！

子供たちの授業風景を見ていますと、姿勢が崩れ、上体を机に伏せていたり、背もたれに寄りかかり足を投げ出したり、頬杖をついたりしている子供などが、散見されます。

これは、決して本人のやる気や我慢強さが足りないわけではなく、身体、感覚、環境、そして心理面といった複数の要因が複雑に絡み合っているものと思います。

中でも、身体（筋力）の未発達は大きな要因だと思います。特に低学年子供たちは、体を真っ直ぐに支え続けるための体幹の筋肉（インナーマッスルや背筋）が十分に発達していないため、想像以上の体力を消耗してしまい、疲れて机に伏せたり背もたれに寄りかかったりしてしまうことがあります。

また、脳や神経の感覚器が未熟であることも影響していると思います。自分の筋肉や関節がどのような状態にあるかを無意識に感知する感覚や、体の傾きやバランスを保つ感覚が未熟のため、脳が自分の体が今どのような姿勢になっているかを正確に把握できず、無意識に体を揺らしたり椅子をガタガタさせたりして、体に刺激を送りながらバランスを取ろうとしているのかもしれない。

この体幹の筋肉や姿勢保持の感覚は、遊び（鉄棒、うんてい、ジャングルジム、登り棒、鬼ごっこ、ケンケンパなど）やスポーツなどでも培われますが、「正しく歩く」ことでも高まると言われています。



研究授業を行いました

令和8年6月22日（月）の2校時、6年1組教室にて、今年度最初の「研究授業」（国語科）を行いました。今後、この研究授業を基に、全学級で取り組み、「郡築小授業改善スタイル」の検証を行っていきます。

「郡築小授業改善スタイル」とは、端的に言うと、研究テーマ「自ら学ぶ子供の育成」のもと、「子供が学ぶ必要性をもって主体的に学習する授業づくり」のことで、そのために、次の3つの視点の研究を行っています。

視点1：子供が学ぶ意欲をもつ「課題設定」の工夫

視点2：子供が学びを深める「学び合い」の工夫

視点3：子供が今後の学びに生かす「振り返り」の工夫

併せて、「自己指導能力」を授業を通して育成しようと、教師の積極的な働きかけも行っています。

この授業は、小中連携・一貫教育の一環で第七中学校の先生方も参観されました。

多くの参観者が見守る中で、子供たちは緊張した面持ちで授業に入りましたが、授業が始まると、よく聞き、よく考え、よく発言するなど、のびのびと活動していました。その姿から、普段から授業に真剣に取り組んでいることがよく分かりました。

